

令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立千鳥小学校

Ⅰ 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・音楽の活動に楽しみながら学習をすすめることができる。
- ・楽器の音を注意深く聞いたり、音楽のようすを的確に感じ取ったりすることができている。
- ・友達と声を合わせて歌ったり、音楽の要素を用いて楽曲の構造を理解したりできる児童が多い。

(2) 課題

- ・新しく取り組む楽曲や教材への見通しがたてられず、意欲が低下してしまう児童がいる。
- ・感じ取ったことを言葉で表したり、さまざまな表現を工夫したりすることに苦手意識をもっている児童がいる。
- ・低学年は、楽曲によって正確な音程で歌うことが難しい児童がいる。中学年、高学年においては、特に器楽の演奏技能に個人差がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・音程やリズム、発音などに気を付けながら歌唱するために、旋律を部分的に取り上げながら、範唱と模唱を繰り返し歌う活動を行う。 ・反復練習や階名唱などの基礎的な学習に身体表現を使い、児童が楽しみながら基礎的な演奏技能を身に付けていけるよう支援する。	・体を動かす活動を通して拍や強弱の変化を感じ取らせ、児童が楽しみながら表現力を高められるようにする。 ・音色や曲想、音楽のようすを表す言葉を例示して児童が選択できるようにする。	・歌に合わせて動作を工夫したり、遊びやゲームの要素を取り入れたりして、音楽活動への意欲を高める。 ・一斉で歌うだけでなく演奏形態や演奏人数を変えるなど、様々な方法で何度も歌ったり演奏したりすることで、児童が新しく出会う楽曲に親しんでいけるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・範唱や範奏を聴いて真似したり、楽譜を指さしながら歌う活動などを取り入れることにより、音色に気を付けて正しい音の高さで歌ったり演奏したりする技能を養う。 ・個人の習熟度に合わせて指導する時間を授業中に設定し、演奏技能に苦手意識をもつ児童が達成感を味わえるよう支援する。	・音色や曲想、音楽のようすを表す言葉を例示して児童が選択できるようにする。 ・さまざまな奏法や表現方法を実際に試し、表現を工夫する楽しさを味わえるようにする。また、それぞれの表現方法による音楽のようすの違いを言葉で振り返る場面を設定する。	・題材や毎時間のめあてを毎回確認し、児童が見通しをもって学習に臨めるようにする。 ・学級全体で意見交換する前にペアで意見を交換する時間を設けることで、児童一人一人が主体的に自分の意見を伝えられるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の歌声をよく聴きながら歌ったり、互いの歌声をじっくり聴きながら歌ったりする活動を通して、自然で無理のない、曲にふさわしい歌声で歌う技能を養う。 ・個人の習熟度に合わせて指導する時間を授業中に設定し、演奏技能に苦手意識をもつ児童が達成感を味わえるよう支援する。	・さまざまな表現方法や奏法を実際にいくつか試すなどして表現を工夫する楽しさを味わえるようにする。また、試した表現方法を互いに聴き合ったり、思いや意図を言葉で説明したりする場面を設定することで、表現の違いによるよさや面白さを味わえるようにする。	・題材や毎時間のめあてを毎回確認し、児童が見通しをもって学習に臨めるようにする。 ・学級全体で意見交換する前にペアで意見を交換する時間を設けることで、児童一人一人が主体的に自分の意見を伝えられるようにする。 ・グループで楽器を選択したり、担当するパートを自分たちで分担したりする活動を取り入れることで、児童が主体的に表現活動へ取組めるようにする。